

1998年10月

マリオパーティ

発売日：1998年12月18日（金）
希望小売価格：5,800円（税別）
NINTENDO64用 パーティゲーム

任天堂とハドソンがNINTENDO64用ソフトで共同開発

任天堂株式会社（代表取締役社長・山内博社長）と株式会社ハドソン（本社・札幌市、代表取締役社長・工藤浩）は、97年春より共同で開発してきた、NINTENDO64用ソフト「マリオパーティ」を、98年12月18日（金）、価格5,800円（税別）で発売します。本ソフトは、任天堂（株）が1983年ファミリーコンピュータを発売して以来人気キャラクターとなっている「マリオ」をはじめ「ワリオ」「ルイージ」「ピーチ」「ヨッシー」「ドンキーコング」の6つのキャラクターが登場するパーティゲームです。（株）ハドソンのこのジャンルにおける開発力を導入することで、今年末のNINTENDO64市場におけるファミリー層の市場活性化を、更に図る計画です。

「マリオ」が登場するゲームソフトは、1983年8月ファミリーコンピュータ用として発売された「マリオブラザーズ」以来、1996年12月にNINTENDO64用として発売された「マリオカート」まで、計23タイトルがリリースされています。なかでも1985年発売された「スーパーマリオブラザーズ」は、全世界で4,000万本以上の販売実績を持つ大人気ソフトです。

一方、（株）ハドソンのパーティゲームソフトについては、1985年ファミリーコンピュータ用に発売された「ボンバーマン」が、シリーズ合計30タイトルで1,000万本以上の実績を誇り、また、桃太郎シリーズのボードゲーム版である「桃太郎電鉄」も、1988年の発売以来シリーズ合計で1,000万本近くの販売実績を見せる人気タイトルとなっています。これらのタイトルは、多人数プレイで楽しめるパーティゲームとして、最近では年末の定番ソフトとして定着、各プラットフォームでも発売されています。

「マリオパーティ」のゲーム内容

マリオ、ルイージをはじめとするマリオ世界のキャラクターを操り、ボードマップ上に散らばったスターを、決められたターン数のなかで誰が一番多く集めたかを競うゲームです。これまでのボードゲームと異なる点は、50種類以上ある豊富なミニゲーム。これらゲームでコインを貯め、いかにライバルより先にキノピオからスターを貰うことができるかによって勝負が決まります。途中、ボード上にいるお馴染みのキャラクターを上手く利用してコインを集めたり、ライバルからコインやスターを奪ったり奪われたりと、浮き沈みの激しい駆け引きも用意されています。

すごろくとしての面白さは、あくまでおまけ的に用意されていて、50種類もある豊富なミニゲームが最大の特徴です。最大4人まで遊ぶことができ、その形態も4人各々の個人戦から、2対2のチーム戦、あるいは1対3の変則的なバトルなど、バラエティー

に富んだ遊び方が可能です。

これまでのボードゲームは煩雑なルールがあるなど、とかく低年齢層から敬遠されがちでした。本作は、ボードゲームにアクション要素を追加することで、低年齢層でもすぐ楽しめる内容になっています。

©1998 Nintendo ©1998 HUDSON SOFT

©2000 HUDSON SOFT ALL RIGHTS RESERVED